

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

明神台保育園

横浜市保土ヶ谷区明神台 5-1

運営主体：社会福祉法人神奈川厚生福祉会

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～4 ページ
評価領域ごとの特記事項	5 ページ
分類別評価結果	6～16 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	17～24 ページ
利用者本人調査分析	25～27 ページ
事業者コメント	28 ページ

2008年12月25日公表

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	明神台保育園（保育所）	
報告書作成日	2008年12月6日	評価に要した期間 8ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間:08年4月12日 ~08年9月30日</p>	<p>08年4月に、全職員参加の園内研修で、評価機関からも趣旨等を説明。まったく分からない状態で模擬自己評価を行う。各クラスで担当項目を決めて勉強し、2回の園内研修を持つ中で、それを発表しあい、質疑応答をしながら確認した。その後、各個人で本番の自己評価を行い、提出した。各個人が記入したものを、主に主任と園長で協議・合意し、まとめた。</p> <p>後日、全職員参加により、提出した自己評価票の内容を確認・共有した。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間:08年9月16日 ~08年9月30日</p>	<p>全園児の保護者（109家族）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配布した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日:第1日 08年10月20日 第2日 08年10月28日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前：各クラスで保育観察。 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：書類調査。園長・主任に面接調査。引き続き保育観察。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前：各クラスで保育観察。 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：各クラス担任保育士6名、栄養士1名、非常勤職員1名、主任に個別に面接調査。その後、園長・主任に面接調査。引き続き保育観察も実施。最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日:第1日 08年10月20日 第2日 08年10月28日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施した。戸外・園外での活動も観察。</p> <p>幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

明神台保育園は、相鉄線「星川」駅から徒歩約10分、小高い丘の上にある“コンフォール明神台”（旧明神台団地）の中にあり、近くには県立保土ヶ谷公園があります。鉄筋コンクリート造3階建ての園舎は、宇宙船をイメージしたつくりで、3階（屋上）にプール・屋上遊園、1・2階にそれぞれ広いホールがあります。丘の上にあるため見晴らしが良く、2階の保育室の一部や屋上からは、みなとみらい・横浜駅・東京都心方面などを眺めることができます。

定員は120名（0～5歳児）で、年齢別のクラス編成となっていますが、1、2歳児はそれぞれ2つの保育室を使い、約10名ずつの少人数に分かれています。各クラスには、ユニークな名前が付けられ、例えば5歳児クラスは、「パタパタと大空を羽ばたく鳥の様に、のびのび成長してほしい」という意味を込めて、「パタパ」としています。

平日の開園時間は6時45分～19時15分、土曜日は6時45分～16時30分です。

当園は、1962年（昭和37年）に日本住宅公団の団地内保育所として開設されたのが始まりで、1977年（昭和52年）に「社会福祉法人厚生福祉会（その後、「社会福祉法人神奈川厚生福祉会」となる）」が設立され、認可保育園となりました。社会福祉法人神奈川厚生福祉会は、現在当園のほか、同区内に「合歓の木保育園」を運営しています。無認可保育所時代を含めると、約46年の実績があります。

法人の保育理念は、「子どもの人権や主体性を尊重し、児童の最善の幸福のために保護者や地域社会と力を合わせ、児童の福祉を積極的に増進し、合わせて地域における子育て支援を行う」としています。この理念のもと、当園の保育目標として、「健康で明るく豊かな感性を持つ子ども」「のびのびと創造的に自己を表現できる子ども」「自分から物事に意欲的に取り組み、やりとげる子ども」「おおらかで思いやりがあり、友達など“ひと”を大切に作る子ども」の4つを掲げています。

高く評価できる点

1、子どもたちは、のびのびと遊び、さまざまな経験をしながら園生活を楽しんでいます

子どもたちが自由に遊ぶ時間が十分に確保されています。園庭には、登り棒、鉄棒、跳び箱、一輪車などの遊具が豊富にあり、子どもたちは興味のあるものを選んで、自分から挑戦しています。また、散歩先の公園では、崖登りをしたり、落ち葉を集めて冠をつくったり、落ち葉を空に向かって投げたり、自然に親しんでいます。

地域との交流では、公園に行く途中などに、地域の人たちに子どもたちは大きな声であいさつをしています。さらに、地域の自治会の防災訓練に子どもたちも参加し、消火器からの放水を自分たちもやりたい、と申し出るなど意欲的です。

また、子どもたちは、基本的な生活習慣を身につけています。例えば乳児でも、午睡のときに脱いだものを、きちんと片付けたりたたんだりし、トイレのときのズボンなどの上げ下ろしも、できるだけ自分でやっていて、できない所を保育士が手助けしています。おもちゃ・遊具の片付けや、給食のときの配膳・後始末なども、年齢に応じた範囲で、子どもたちが進んで行っています。

園庭では、稲を植え、じゃがいも・さつまいも・夏野菜などを栽培し、収穫してクッキングの時間に子どもたちが調理を楽しんだり、給食室で調理してもらったりして、子どもたちが食べ物の大切さを知り、感謝の気持ちを持って食べる心を育てるようにしています。

どの場面でも、保育士は、子どもたちに穏やかな話し方で接していて、子どもたちは静かに聞き、意見

があるときは、自分の思いをはっきりと伝えていて、お互いの信頼関係が築かれています。

2、職員一丸となって子どもたちに向き合っています

全職員が、クラスに関係なくどの子どもに対しても、一人ひとりの個性を把握し、自主性を発揮できるように援助しています。その背景には、職員会議・園内研修・クラス会議など、あらゆる機会を捉えて、全職員が一人ひとりの子どもの様子や状況などを把握し情報を共有していることや、気づいたことは職員同士ですぐに話し合える雰囲気の良い良さがあります。また、園長・主任も日常的に現場に出て子どもたちの様子を把握するとともに、気づいたことはその場で職員に適切な助言・指導を行っていて、「伸び伸び遊ぶ元気な子」「基本的な生活習慣を身につけた子どもを育てる」という園の保育理念にもとづいた保育となるように、全職員が努めています。

3、地域の中の保育園として根付いています

地域の子育て支援として、一時保育・交流保育・園庭開放・育児相談を行っています。特に園庭開放では、小さい子どもたちが屋内の小ホールを使えるようにしたり、プール遊び・七夕祭り・ミニ運動会・焼き芋大会・コンサートなどを行ったりして、園に来る楽しみを増やしています。

また、餅つき大会・七夕祭り・敬老の日お楽しみ会などの行事に地域住民を招待しています。夏に横浜港で行われる花火大会の日には、夜間に、見晴らしの良い屋上や保育室を地域の人々に開放し、花火見物を楽しんでもらっています。

さらに、地域の人たちに、餅つき大会などさまざまな園の行事の手伝いや、園の周りの草刈りを自主的にしてもらっています。子どもたちも、自治会の防災訓練に参加したり、敬老会から招待されて遊戯を披露したり、勤労感謝の日には保土ヶ谷公園事務所の職員に絵を描いて届けたりするなど、地域との交流を深めています。

日常的にも、子どもたちは、散歩をしているとき地域の人たちに大きな声であいさつをし、地域の人たちもとてもうれしそうにあいさつを返してくれたり、手を振ってくれたりしています。この地で46年の実績を持つ園が、地域の中に溶け込んでいることがうかがえます。

今後の取り組みが期待される点

1、人材育成計画の作成

長年の保育の積み重ねの中で、人材は育っています。特に職員の資質向上のための取り組みとしては、職員（常勤・非常勤職員とも）が、園内研修や外部研修などに参加し、その成果を日常の保育に活かしています。また、最近では、園長と職員との個別面談により年度の目標設定をし、その達成度評価を行うことや、入園式・運動会など、さまざまな園の行事を企画・立案する担当者を定め、業務を遂行することにより、必要な知識・技能を得られるようにし始めています。

しかし、研修、企画・立案業務などの中で、どのようなことを習得してほしいか、どのようなレベルまで達してほしいかなどが、あまりはっきりとは示されていません。保育技術も含めて、新人保育士・中堅保育士・リーダークラス保育士・主任保育士などに分けて、期待水準を明文化することが望めます。さらに、人材育成に関する基本的な考え方、育成の方法（OJTによるもの、研修によるもの、自己啓発によるものなど）、期待水準などを総合的にまとめた人材育成計画を作成することにより、より一層効果的な資質向上への取り組みとすることが期待されます。

2、マニュアルの見直し

「要望・苦情解決」「こどもの健康管理」「感染症への対応」「衛生管理」「安全管理」「個人情報保護」「ボランティア・実習生受け入れ」などのマニュアルは作成されていますが、内容的に不十分なものや、定期的な見直しの記録がないものなどが見受けられます。例えば、「要望・苦情解決マニュアル」では、保護者が第三者委員に直接苦情を申し立てできることや、他機関の苦情解決窓口（区福祉保健センター・市福祉調整委員会など）があることを保護者に知らせることなどを付け加えると、より一層内容が充実します。その他のマニュアルも含め、内容をもう一度チェックするとともに、定期的な見直しをどのように行うかなど、管理体制も工夫することが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権の尊重

- ◇ 法人の保育理念に、「子どもの人権や主体性を尊重する」ことなどを掲げています。
- ◇ 個人情報の取り扱いと守秘義務についてのマニュアルを作成し、全職員が周知しています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ◇ 園の屋内・外とも、清掃が行き届き、清潔に保たれています。
- ◇ 保育目標は、「健康で明るく豊かな感性を持つ子ども」「のびのびと創造的に自己を表現できる子ども」「自分から物事に意欲的に取組み、やりとげる子ども」「おおらかで思いやりがあり、友達など“ひと”を大切に子ども」の4つを掲げています。これらに基づき、職員は一丸となって子どもたちに向き合っています。
- ◇ 子どもたちが自由にのびのびと遊ぶ時間が十分に確保されています。
- ◇ できるだけ外遊びや散歩を取り入れ、健康増進・体力づくりを図っています。
- ◇ 園庭で子どもたちが育てた野菜などを、収穫・調理して、子どもたちが食への関心を高めるようにしています。
- ◇ 子どもたちが、基本的な生活習慣（食事、睡眠、排泄、衣服の着脱など）を身につけるようにしています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 年齢ごとに、年間指導計画・月間指導計画・週案を作成しています。
- ◇ 特に配慮を要する子どもも受け入れ、保護者の了解を得て、地域療育センターなどと連携をとっています。
- ◇ 健康管理、感染症対策、衛生管理、安全管理、要望・苦情解決、個人情報保護、ボランティア・実習生受け入れなどのマニュアルを作成しています。しかし、内容的に不十分なものや、定期的な見直しの記録がないものなどが見受けられるので、内容の再チェックと管理体制の工夫が望まれます。
- ◇ 保護者が、保育参加することを積極的に勧めています。

4、地域との交流・連携

- ◇ 一時保育・交流保育・園庭開放・育児相談を実施しています。特に、園庭開放では、ミニ運動会、焼き芋大会などを行い、園に来る楽しみを増やしています。
- ◇ 日常的に、地域住民と園・子どもたちとの交流が盛んに行われていて、地域の中の保育園として根付いています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 守るべき法・規範・倫理などは、就業規則や業務マニュアルなどに記載しています。
- ◇ 園長と職員の個別面談時に、理念・保育目標などの理解を確認しています。
- ◇ 法人として、15年の長期計画、5年の中期計画を作成しています。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 園内研修・外部研修に、正職員・非常勤職員とも参加しています。
- ◇ さまざまな園の行事を企画・立案する担当者を定め、業務を遂行することにより、各職員が必要な知識・技能が得られるようにしています。
- ◇ 職員の経験年数や習熟度に応じた保育技術・能力・役割などを、期待水準として明文化するとともに、総合的な人材育成計画を作成することが望まれます。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。





「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 法人の保育理念に、「子どもの人権や主体性を尊重する」などを掲げていて、利用者本人を尊重したものとなっています。 保育の目標として、「健康で明るく豊かな感性を持つ子ども」「のびのびと創造的に自己を表現できる子ども」「自分から物事に意欲的に取り組み、やりとげる子ども」「おおらかで思いやりがあり、友だちなど“ひと”を大切に作る子ども」の4つを掲げています。 指導計画を、年度初めの保護者懇談会などで保護者に説明しています。また、「入園のしおり」に保育目標や保育姿勢を記載するほか、毎月の「えんだより」に年間保育目標や毎月の保育目標を掲載し、保護者に周知しています。 指導計画は、子どもの自主性・主体性を育て、発揮できるように配慮し、作成しています。また、子どもたちの意見・意思を取り入れて週案や日案を変更するなど、柔軟に対応しています。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 入園説明会を開き、保護者に面接しています。その際、子どもを連れてきてもらい、子どもを観察しています。子どもを連れて来られなかった場合には、入園前に園庭開放に参加するように勧めています。 新入園時の短縮保育（園では、「受け入れ保育」と称しています）については、保護者に十分に説明し、保護者の就労状況などに配慮しています。 0、1歳児の新入園児に対しては、個別に主担当保育者を決めています。 年齢ごとに、年間指導計画、月間指導計画、週案を作成しています。また、指導計画の評価、改訂にあたっては、担任や関係する複数の職員が参画しています。

- 3 快適な施設環境の確保



- ・園の屋内・外とも、清掃が行き届き、清潔に保たれています。
- ・保育室・事務室・トイレなど、すべて床暖房となっています。また、幼児トイレは暖房便座とし、冬場でも、子どもたちが利用を我慢することがないようにしています。
- ・各トイレ・園庭・屋上プールに温水シャワーがあります。また手洗いは、すべて温水栓となっていて、温かい水がでるので、子どもたちが手洗いの習慣を身につけやすくなっています。
- ・1、2歳児は、それぞれ2つの保育室に分かれて保育し、落ち着いた雰囲気の中で過ごせるようにしています。
- ・1、2階にそれぞれホールがあり、異年齢児交流の場となっています。
- ・保育室には、床面から窓を設け、子どもたちが外を見やすくしたり、階段は段差を小さく緩やかにしたり、子どもの動きを考えた園舎のつくりとなっています。

- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・0~2歳児について、個別指導計画を作成しています。
- ・幼児について、特別な課題がある子どもには、個別指導計画を作成しています。
- ・子どもや家庭の個別の状況・要望などは個人別の児童票に、子どもの成長発達の記録は保育経過記録に記載しています。
- ・児童票・保育経過記録などは、個人別にファイルして保管していて、必要に応じ全職員が見ることができます。

- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み




- ・特に配慮を要する子どもについては、個別のケースごとに、職員会議・乳児部打ち合わせ・幼児部打ち合わせ・リーダー会議などで話し合っています。
- ・保護者の同意を得て、西部地域療育センターの巡回相談で助言を受け、保育に活かしています。
- ・障がい児保育について、外部研修を受けた保育士は報告書を作成し、全職員が見られるようにしています。また、職員会議などで障がい児保育について話し合い、園全体で取り組んでいます。
- ・職員会議や園内研修で、アレルギー疾患に関する知識や情報を、全職員に周知しています。
- ・給食に関して、アレルギーを起こす食材をチェックした献立表を給食室・保育室に貼り、個人別にも、どの子どもはどの食材が不適なのか、リストを作っています。また、除去食・代替食には名札を付け、職員間でその都度声をかけ合い、誤食のないようにしています。
- ・文化や宗教上の理由による個々の保護者からの要望などに対しては、違いを認め尊重しています。
- ・日本語が不得手な保護者に対しては、連絡ノートの記入をひらがなにしたり、漢字に振り仮名を振ったりしています。

- 6 苦情解決体制



- ・ 要望・苦情の受け付け責任者は主任であり、「入園のしおり」に明記しています。
- ・ 意見箱を玄関に設置し、保護者全員に、「貴方の声を聞かせてください」と表題をつけた記入用紙をあらかじめ配布し、保護者がいつでも要望や意見などを書き入れ、投入できるように便宜を図っています。また、クラス懇談会など保護者が集う場で、要望や意見を聞いています。
- ・ 第三者委員に直接苦情を申し立てができることや、他機関の苦情解決窓口（区福祉保健センター・市福祉調整委員会など）があることを、保護者に知らせることが望まれます。
- ・ 要望・苦情対応マニュアルを作成しています。
- ・ 第三者委員には、理事会に出席してもらったり、年1、2回打合せを行ったりしています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="161 394 472 427">- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul data-bbox="595 264 1481 1621" style="list-style-type: none">・ 園舎は、床からの窓を設けて、子どもの目線に合わせて外を見られるようにしたり、保育室の押入れ下部分を空けて、子どもたちが小さな空間に入り込んで遊べるようにしたりしています。園長の豊かな保育経験を活かし、子どもたちが喜び、落ち着ける空間づくりをしています。・ 子どもたちは、友だちとごっこ遊びをしたり、製作で自分の作品に打ち込んだりしながら、自分を表現する力を養っています。・ 団地自治会の人々との関係は、長い年月の歴史のなかで大変良好です。日常の散歩においても、子どもたちが、この地域と地域の人々に守られていると実感する光景が見られ、子どもの安心と安全の支えとなっています。・ 県立保土ヶ谷公園をはじめとして、園外活動の場到大変恵まれた環境にあります。毎年6月初めには保土ヶ谷公園内のプールでヤゴ捕りをし、保育園や家庭に持ち帰り、ヤゴがトンボに育つまでを観察しています。・ 子どもたちが、ジャガイモ、サツマイモ、稲、夏野菜などの栽培を行い、さらに収穫、調理を体験して、食への関心を高めるようにしています。・ 子どもの絵や製作物は、保育室内の天井や壁に飾ってあり、子どもも保護者もいつも目にすることができます。作品は、運動会・トンボ・サンマなどの行事や季節を題材にし、さらに展示もこまめに変わる工夫がみられます。・ 乳児のクラスにおいても、子どもに対して「人が嫌なことはしない」という基本を、優しく、しかもきちんと教える姿勢があります。・ 原則として、毎週月曜日に3歳児から5歳児の縦割り保育の日を設け、さらに、5歳児の乳児クラス訪問などもあり、異年齢児間の交流に配慮しています。・ 園庭には、登り棒、鉄棒、跳び箱、一輪車などの遊具が豊富にあり、興味のある子どもは自分から挑戦していきます。保育士は危険のないように、手を添えたり、見守ったりしながら子どもの成長を支えています。

- 1 保育内容[生活]



- ・ 給食に関して、できるかぎり旬の食材と国産の食材を使用し、季節感のある献立作りと素材そのものの味を活かした給食作りを心がけています。デザートも果物も輸入品は使用しません。また、午後のおやつも手作りで提供するなど、食の安心・安全に配慮しています。
- ・ 保育士はそれぞれの子どもが食べられる量を考えて盛り付けをし、子どもたちが完食の喜びを実感できるようにしています。きれいに食べ終わった食器を「ぴかぴかだね」と褒めたり、もっと食べられる子どものお代わりに応じたりしています。
- ・ 離乳食の時期から入園した子どもについては、初めに1度、家庭での離乳食を持参してもらい、子どもに合った食事を提供するための参考にしています。
- ・ 調理担当者が子どもたちの食事の様子を見る機会をもち、献立作りに役立てています。特に個人差のある離乳食は、保育士とともに、子どもが食べる様子を見ることで、一人ひとりの発達に合わせた対応をしています。
- ・ 毎日玄関ホールに、その日の給食サンプルを展示し、保護者が、園で提供する食事に関心を持つよう考慮しています。
- ・ 乳児の保育室は床の一部を畳敷きにしてあり、午睡時も利用します。幼児の保育室は、床にごさを敷き、午睡のスペースとしています。室内の温度・湿度に気を配り、オルゴールの優しい音楽を流して心地よい眠りにつけるように配慮しています。
- ・ 排泄については、職員会議でも取り上げ、一人ひとりの個人差があることを保育士全員が十分理解しています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・ 子どもの既往症については、入園時に保護者が児童票に記載したものをもとに、経過連絡を十分に取り合い対応しています。健康上配慮が必要な子どもについては、園内研修で話し合い、関係する職員全員が周知しています。
- ・ 食後の歯磨き指導は、まず歯ブラシを口に入れる練習を1歳から始め、歯磨きの習慣をつけるトレーニングを徐々に進めています。
- ・ 健康診断（年2回）と歯科健診（年1回）が行われ、一人ひとりの結果が記録されています。
- ・ 感染症への対応マニュアルを作成し、保護者には入園時に配布する「入園のしおり」によって、感染症の種類やかかったときの対応などを周知しています。また、感染症が発症したときは、玄関の掲示板に、症状や対応などを含めて記載したものを速やかに掲示し、保護者に伝えています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



- ・ 衛生管理マニュアルを作成し、流行性の病気が出やすい時期になる都度、職員間で話し合いを持ち、衛生管理への関心を深めています。
- ・ マニュアルに基づき清掃が行われ、清掃記録に日々記録することで園内外の清潔が保たれています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [安全管理]



- ・安全管理に関するマニュアルを作成し、全職員が周知しています。数多い遊具の安全点検チェックも行われ、さらに、日常の保育の上で考え得る危険を想定した配慮事項や指示も、具体的に記述しています。
- ・消火器を壁の中に収納型にして、子どもたちがつまづくことのないようにしたり、園庭に出る大きなサッシドアを、子どもが手を挟さんでもケガをしにくい特殊な形状のものとしたり、安全対策を講じています。
- ・事故防止と事故発生時対応のマニュアルを作成し、関係する救急機関への連絡体制と、通報の要点を記載しています。また子どものけがは、必ず保護者に連絡し状況を説明するとともに、保育日誌に記録を残しています。
- ・門扉の開閉は、IDカードを使用するセキュリティシステムを導入し、不審者侵入防止策を講じています。

- 3 人権の尊重





- ・常日頃の職員間の話し合いの中で、保育士は、子ども一人ひとりの人格を尊重して保育にあたる認識を持っています。保育士は、子どもたちの気持ちや発言を、余裕をもって受け止め、言い合いがあっても双方の気持ちを聞き、それぞれにわかりやすく伝えています。
- ・必要なときに、保育士と子どもが一对一で話し合う場所としては、1階と2階のホールがあります。さらに、子どもの状態によっては、保育士の控え室を利用することもあります。
- ・個人情報の取り扱いと守秘義務についてのマニュアルを作成し、守秘義務の意義や目的について、職員会議で常に確認し合い、全職員が周知しています。
- ・虐待の定義を全職員が周知しているとともに、虐待があったり、疑わしかったりするときには、西部児童相談所などの関係機関と連携する体制があります。
- ・遊びや行事の役割、服装などを男女による区別はせず、自由に子どもの好きなものを選ばせています。

- 4 保護者との交流・連携






- ・ 入園時には保護者に対して、保育目標と保育姿勢を明記した「入園のしおり」を配布し、さらに入園時やクラス懇談会の場で、保護者に口頭で説明し、保護者との信頼関係を深める努力をしています。
- ・ 年間を通じ、原則として火曜日を保育参加の日としています。保育参加は、自分の子どもも含めた園児の保育に参加することで、集団で育つ子どもの新しい面が発見でき、保育への関心が深まる、と保護者から好評を得ています。自分の都合がつく日を選べるので、大部分の保護者が参加しています。
- ・ 保育参加の日に、個別面談を実施しています。
- ・ 事務室内に相談室が設けてあり、誰にも聞かれることなく、保護者は相談をすることができます。クラス担任のほかに、主任・園長のどちらか、または両名が加わり、適切な対応をしています。
- ・ 保育の様子を知らせる「えんだより」を毎月発行しています。さらにクラスノートや連絡帳にその日の様子を記録するほか、行事の様子を写真や文章で保育室内に掲示し、園生活の情報提供をしています。
- ・ 年間行事予定は年度初めにおたよりで知らせ、保護者の予定を立てやすくする配慮をしています。
- ・ 組織としての保護者会はありませんが、保護者参加の催しや、クラス懇談会などを通して、保護者とのコミュニケーションをとる努力をしています。




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園庭開放・交流保育・育児相談や、地域との交流行事の中で、施設への地域の要望を把握しています。 ・ 地域の子育て支援ニーズについて、定期的に職員会議で取り上げ、前向きな取り組みを進めています。 ・ 一時保育、交流保育、園庭開放などの子育て支援サービスを実施しています。園庭開放には担当保育士がつき、プール遊び、ミニ運動会、焼き芋大会、コンサートなどを催し好評を得ています。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園庭開放の日には、園の入口に開催の案内を掲示しています。また園庭開放の日には、育児相談も行っています。 ・ 園の行事が行われるときには、園児の描いたポスターを、園のフェンスや団地の各号棟のエントランスに貼り出して、地域の人に知らせています。 ・ 関係機関とのつながりについては園長が担当し、自治会、幼保小連携事業、西部地域療育センター、区福祉保健センターなどと連携ができています。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・もちつき大会、七夕、敬老の日お楽しみ会などの園の行事に地域住民を招待し、また地域の行事に子どもたちが参加するなどして、お互いの交流を深めています。 ・毎年横浜港で行われる花火大会の日には、見晴らしの良い園の屋上と海側の保育室を地域の人に開放し、花火を楽しんでもらっています。 ・自治会の防災訓練に園児が参加したり、敬老会からの招待を受け遊戯を披露したりするなどの交流の中で、子どもの生活の充実と地域の理解を深めています。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市のホームページ、「こっころ」（保土ヶ谷区地域子育て支援拠点）、区福祉保健センターなどに園の情報を提供するほか、地域の会合では園のパンフレットの手渡しも行っています。 ・利用希望者には、施設見学や園庭開放を実施していることを伝えていきます。園庭開放を経験して入園を希望した利用者も多くいます。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア受け入れ・実習生受け入れのマニュアルを作成し、受け入れ前に、職員や利用者に基本的な考え方や方針の説明をしています。 ・ボランティアとして、中学生の体験学習のほか、高校生、大学生、実習を経験した保育学生などの参加があります。 ・地域との長く親しい付き合いの中で、多くの地域の人々に、餅つきなど園の行事の手伝いや、園の周囲の草刈りを自主的にしてもらっています。 ・看護実習生や保育実習生を受け入れています。実習生の希望を聞いた上で、各クラスの状況を考慮して担当クラスを決定し、まず子どもに慣れることから保育実習を始めていきます。 ・実習の最後には、実習生と職員の意見交換の機会があり、学生が実習で学んだことを発表しています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最近、年度初めに職員一人ひとりが年度の目標を定め、それをもとに園長と個別に面談しています。年度末には、達成度、反省点などを園長と話し合っています。 ・ 年3回、内部研修を行っていて、非常勤職員も参加しています。 ・ 市・区主催の研修会など外部研修へ、常勤職員・非常勤職員とも参加しています。 ・ クラス内打ち合わせ、幼児部打ち合わせ・乳児部打ち合わせなどで、常勤職員・非常勤職員の話し合いを密にし、コミュニケーションを図るとともに、より良い保育への取り組みができるように努めています。 ・ 人材育成計画を策定（明文化）することが望まれます。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員会議で、保育技術の課題や反省点などを話し合っています。会議に出られなかった職員には内容を伝達しています。 ・ 園内研修で、当園の事例や園長会で得た他園の事例など、工夫・改善した良いサービスを具体的に取り上げ、より一層のサービス向上となるように努めています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな行事の主担当者を定め、経験を積むことにより、各職員が必要な知識・技能などを得られるようにしています。 ・ 職務分担表により、各人の役割を明確化し、現場の職員にできる限り権限を委譲しています。 ・ 職員の経験・能力や習熟度に応じた保育技術・能力・役割などを、期待水準として明文化することが望まれます。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員が守るべき法・規範・倫理などは、就業規則、業務マニュアルなどに記載し、各種の会議などで周知徹底するようにしています。 ・ 経営、運営状況などの報告資料を事務室に備え、職員が見られるようにしています。 ・ 自園、他園を問わず、不適切な事例などを職員会議で取り上げて、どのように対処するのが適切なのかなどを議論しています。 ・ 牛乳パックを製作や手づくりおもちゃに利用するなど、ゴミを減らす取り組みをしています。 ・ 2階のホールの天井には、明り取りの窓があり、省エネルギーの設計となっています。 ・ 環境への考え方や取り組みを、運営方針などに明文化するには至っていません。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の理念・保育目標などを、保育室・事務室に掲示しています。 ・ 園長と職員の面談時に、理念・保育目標などの理解を確認しています。 ・ 園長は、クラス懇談会に参加したり、送迎時に声をかけたりして、保護者との意見交換に努めています。 ・ 3歳児以上の主食提供開始や、延長保育サービスの制度変更などの際には、職員・保護者に理由・経過などを十分に説明しています。 ・ 主任は、できるだけ保育の現場に入って、職員の日常業務を把握するようにしています。 ・ 主任は、職員から気軽にさまざまな相談を受けるなど、職員から信頼されています。 ・ 主任クラスを計画的に育成するプログラムを作成することが望まれます。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業運営に影響のある情報は、市・区役所、市社協、私立保育園園長会などから得ています。 ・ 園舎の建て替え、大規模改修など、将来必要となると思われる出費に備えての対応を、重点課題として設定しています。 ・ 法人として15年の長期計画、5年の中期計画を定めています。 ・ 理事として、学識経験者などがおり、運営に関し意見交換しています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2008年9月16日～9月30日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 80.7%（109枚配付、88枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...13人、1歳児クラス...18人、2歳児クラス...15人、3歳児クラス...15人、
4歳児クラス...16人、5歳児クラス...11人

ただし同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

設問ごとの特徴

【問1】保育園の基本理念や基本方針について

「保育園の保育目標や保育方針」について「知っている」（ ）と答えた保護者は65%です。「知っている」と答えたほとんどの保護者が、保育目標や保育方針に賛同できると答えています。

数値は「よく知っている」「まあ知っている」の回答を合わせた数値

【問2】入園時の状況について

「子どもの様子や生育暦を聞く対応」「1日の過ごし方の説明」については、90%以上の満足度（ ）があります。「見学の受け入れ」「入園前の見学や説明」「費用やきまりに関する説明」については、85%以上の満足度です。

“入園前に園庭開放を利用して園の様子を体感できて良かった”という声があります。また、費用についての説明が不足していると感じた保護者の声もあります。

満足度は、「満足」「どちらかといえば満足」の回答を合わせた数値（以下同様）

【問3】年間の計画について

「年間の保育や行事についての説明」については、86%、「保護者の要望が活かされているか」については80%の満足度です。

“年度初めに予定が分かって助かる”“季節の行事が充実している”などの声が多くあります。

【問4】日常の保育内容「遊び」「生活」について

「遊び」についての全ての設問が90%以上の満足度です。“子どもが保育園を楽しんでいる”とのコメントが多くあります。室内の遊び・園庭の遊び・散歩や園外活動、それぞれに満足を表す声があります。

「生活」についての「給食の献立内容」「給食を楽しんでいるか」「基本的な生活習慣の自立に向けての取り組み」「体調への気配り」などの設問に90%以上の満足度です。“給食でたくさん食べられるようになった”“給食がすばらしい”などの声があります。

ケガをしたときの対応には、“子どもにケガやケンカはつきもの。小さな傷でも保育園からお詫びをされると恐縮してしまう”と感じている保護者がある一方で、“ケガをしたときの説明があまりなかった”などの声もあります。また“午睡を短くしてほしい”“必要のない子に午睡はなくして”などの要望もあります。

【問5】快適さや安全対策などについて

すべての設問について90%以上の満足度です。特に他園では不満の出やすい「不審者侵入防止対策」に、97%の満足回答が寄せられています。設備の良さを好感する声が多くあります。

【問6】園と保護者との連携・交流について

「保護者懇談会や個別面談などによる話し合い」「園だよりや掲示による情報提供」「行事の開催日や時間帯への配慮」「保護者からの相談事への対応」については、90%前後、他の設問は80%以上の満足度です。
“保育参加で園での子どもの様子を見られて良かった”という声や、“お迎え時にその日の子どもの様子を口頭で何か一言聞きたい”などの要望があります。

【問7】職員の対応について

「子どもが大切にされているか」「話しやすい雰囲気か」の設問に90%以上、「子どもが保育園を楽しんでいるか」についてはほぼ100%の満足度です。「アレルギーや障がいのある子どもへの対応」は、“当事者でないので分からない”などで、「その他」回答が多くなっています。

【問8】保育園を総合的に評価すると

94%の保護者が満足と回答しています。

【問9】園への要望など

園や職員に対する感謝の声が多くあります。また、“毎週の布団の持ち帰りが大変”“園の決まりなどを口頭でなく文書で明示してほしい”などの意見があります。

まとめ

- ◇ 遊び・給食・施設設備などに関する設問に、大きな満足回答が寄せられています。子どもが園生活を楽しんでいることに、保護者は安心感を持っていると思われます。
- ◇ 保育士への賛辞、感謝のコメントが数多くあり、保護者との信頼関係の良さがうかがえます。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

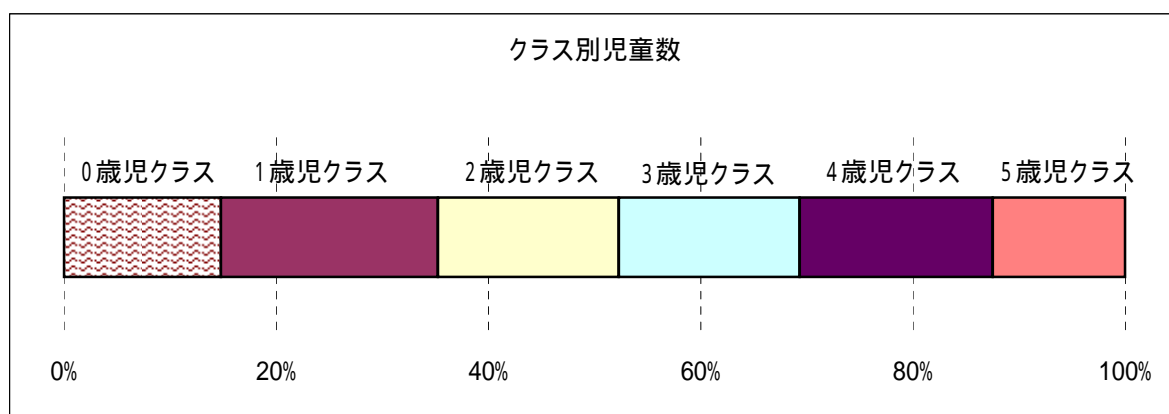
実施期間： 2008年 9月16日～9月30日

回収率： 80.7% （回収88枚 / 配布109枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
88	13	18	15	15	16	11	0

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



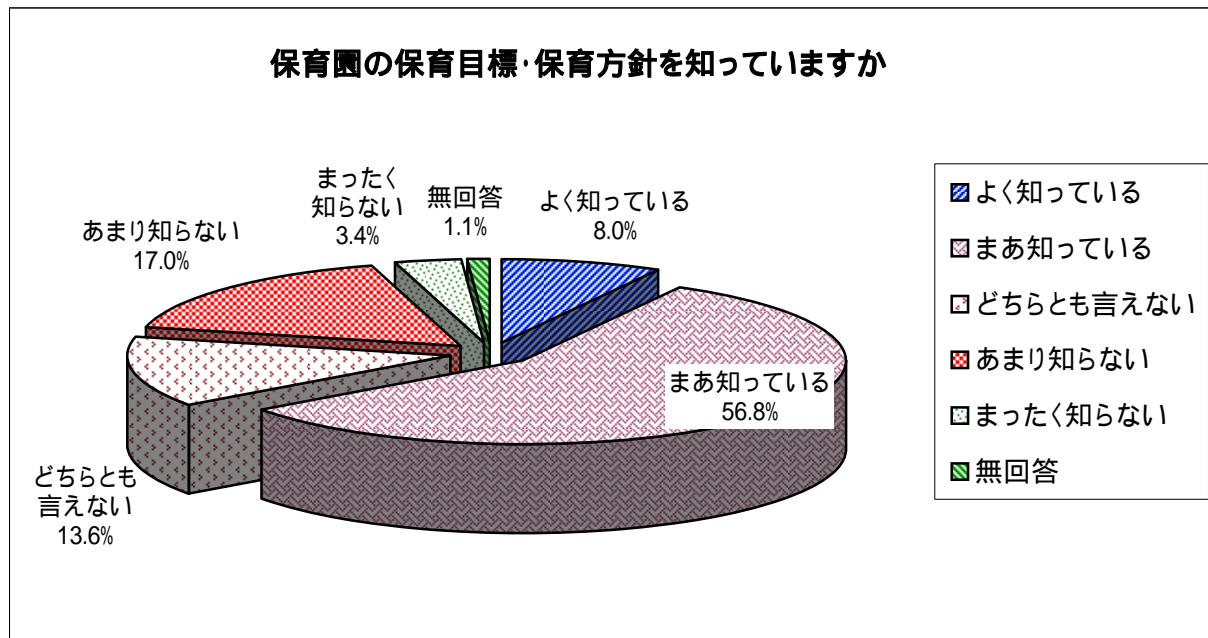
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	8.0	56.8	13.6	17.0	3.4	1.1	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

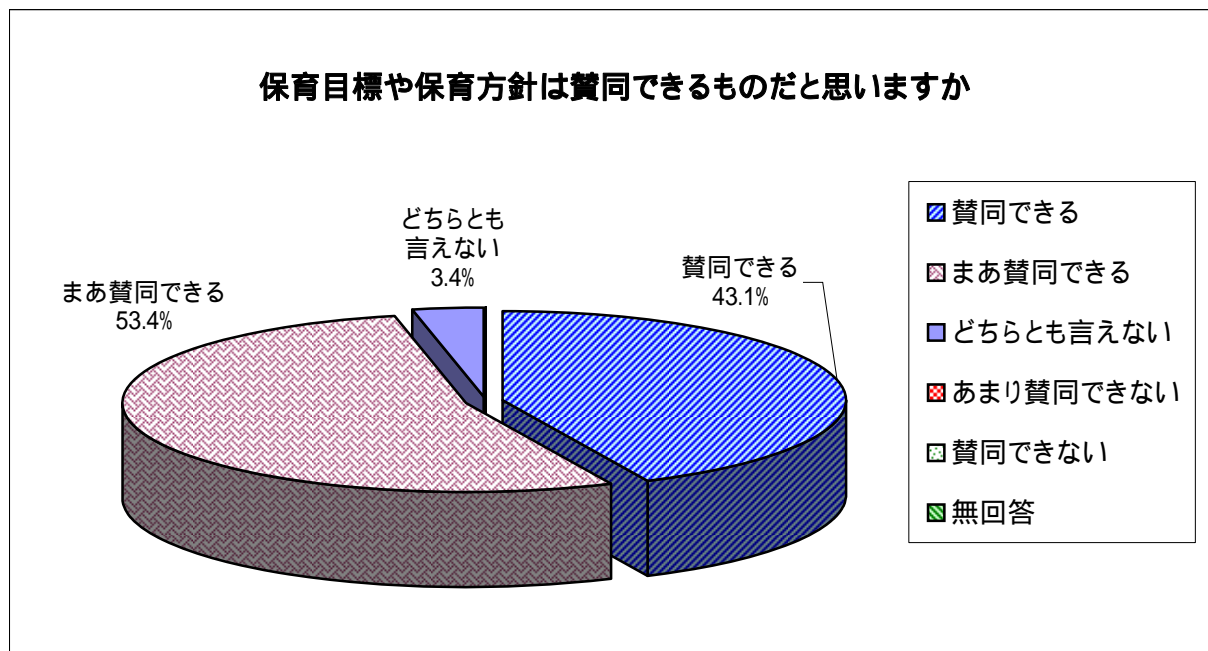


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	43.1	53.4	3.4	0.0	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

問2 入園時の状況について

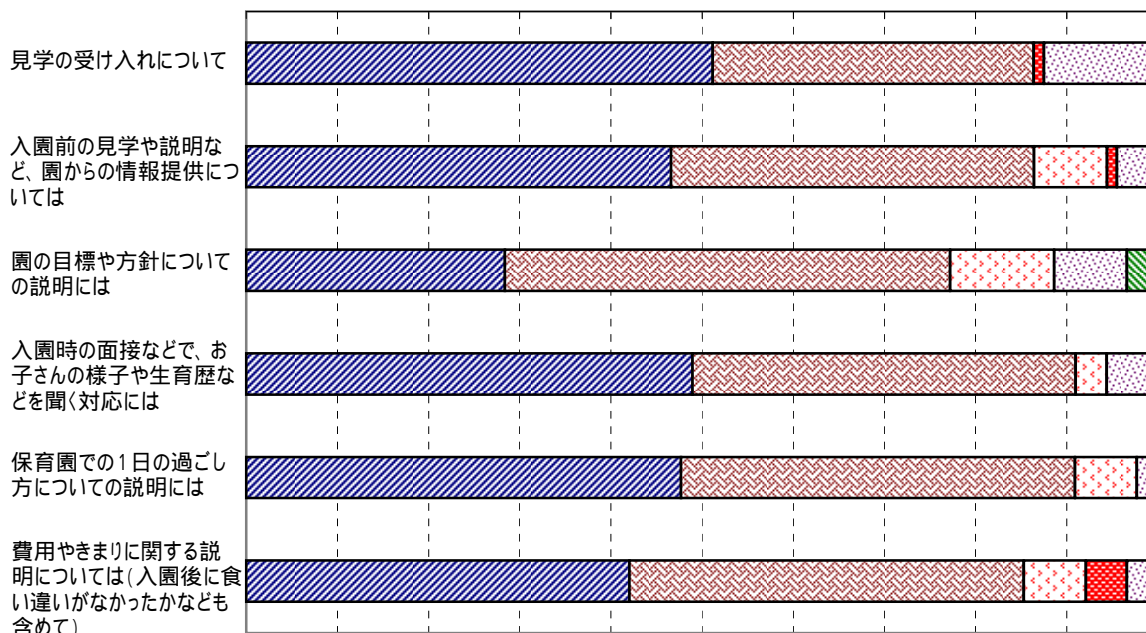
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	51.1	35.2	0.0	1.1	12.5	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	46.6	39.8	8.0	1.1	4.5	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	28.4	48.9	11.4	0.0	8.0	3.4	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	48.9	42.0	3.4	0.0	4.5	1.1	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	47.7	43.2	6.8	0.0	2.3	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	42.0	43.2	6.8	4.5	3.4	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問3 年間の計画について

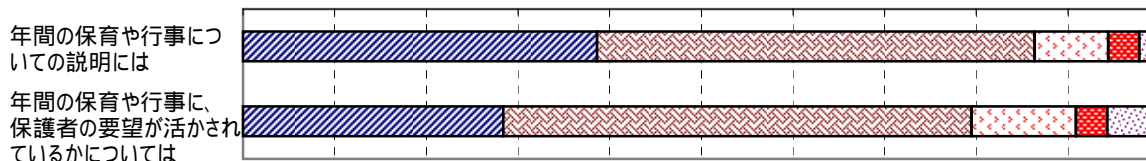
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	38.6	47.7	8.0	3.4	1.1	1.1	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	28.4	51.1	11.4	3.4	5.7	0.0	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



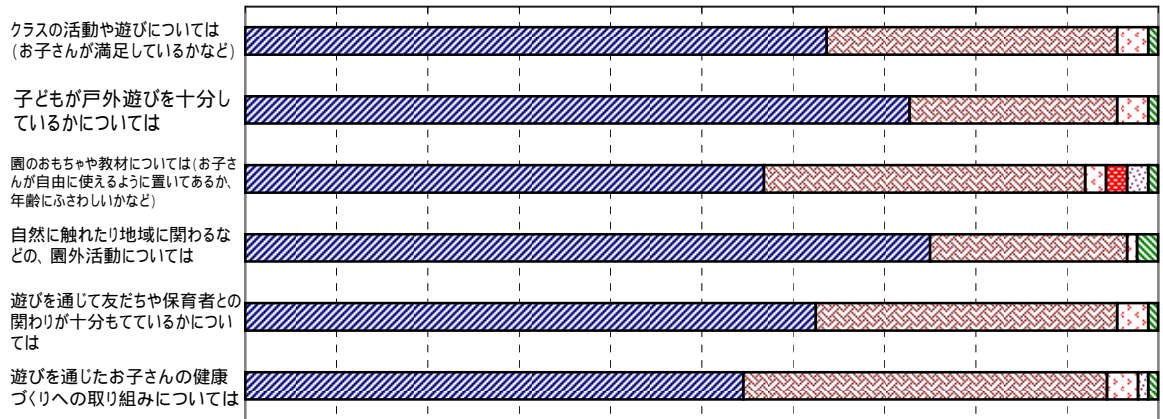
問4 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	63.6	31.8	3.4	0.0	0.0	1.1	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	72.7	22.7	3.4	0.0	0.0	1.1	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	56.8	35.2	2.3	2.3	2.3	1.1	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	75.0	21.6	1.1	0.0	0.0	2.3	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	62.5	33.0	3.4	0.0	0.0	1.1	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	54.5	39.8	3.4	0.0	1.1	1.1	100

日常の保育内容「遊び」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

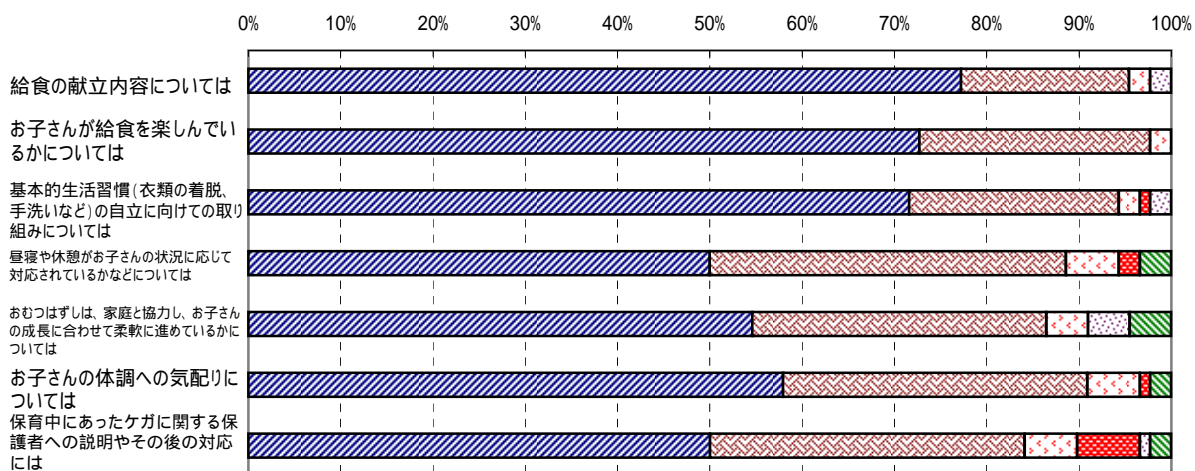


(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	77.3	18.2	2.3	0.0	2.3	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	72.7	25.0	2.3	0.0	0.0	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	71.6	22.7	2.3	1.1	2.3	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	50.0	38.6	5.7	2.3	0.0	3.4	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	54.5	31.8	4.5	0.0	4.5	4.5	100
お子さんの体調への気配りについては	58.0	33.0	5.7	1.1	0.0	2.3	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	50.0	34.1	5.7	6.8	1.1	2.3	100

日常の保育内容「生活」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



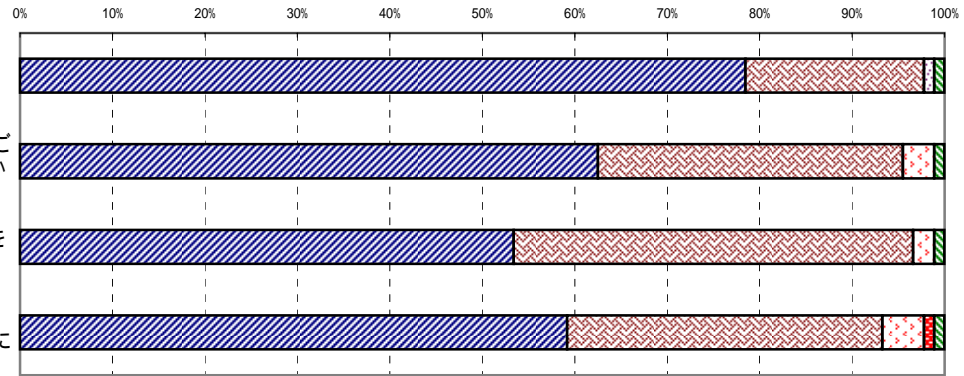
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	78.4	19.3	0.0	0.0	1.1	1.1	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	62.5	33.0	3.4	0.0	0.0	1.1	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	53.4	43.2	2.3	0.0	0.0	1.1	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	59.1	34.1	4.5	1.1	0.0	1.1	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



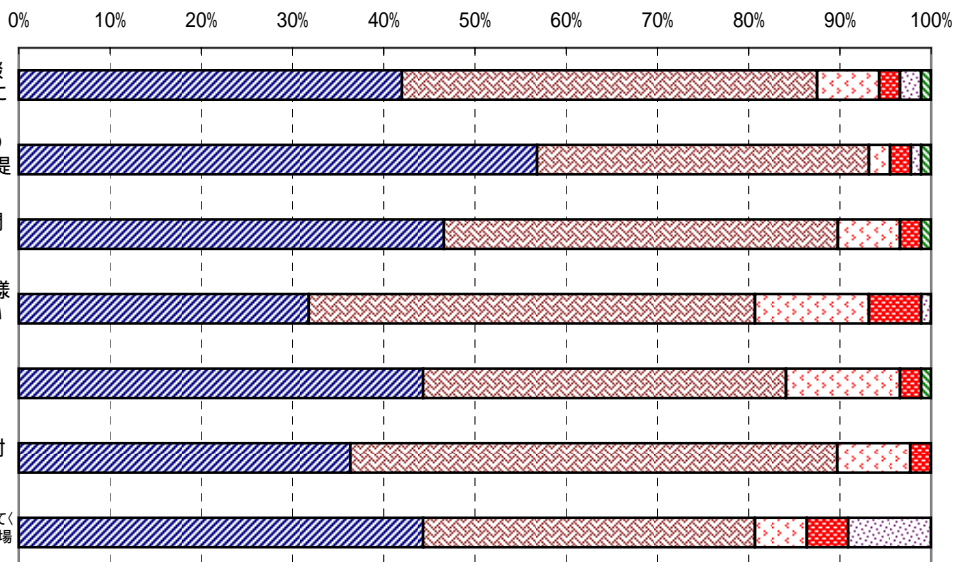
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	42.0	45.5	6.8	2.3	2.3	1.1	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	56.8	36.4	2.3	2.3	1.1	1.1	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	46.6	43.2	6.8	2.3	0.0	1.1	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	31.8	48.9	12.5	5.7	1.1	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	44.3	39.8	12.5	2.3	0.0	1.1	100
保護者からの相談事への対応には	36.4	53.4	8.0	2.3	0.0	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	44.3	36.4	5.7	4.5	9.1	0.0	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

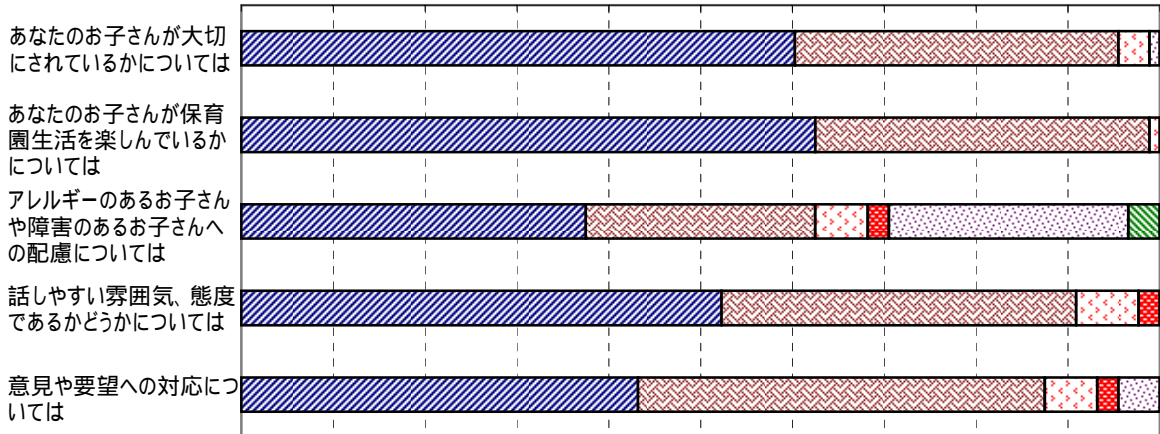
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	60.2	35.2	3.4	0.0	1.1	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	62.5	36.4	1.1	0.0	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	37.5	25.0	5.7	2.3	26.1	3.4	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	52.3	38.6	6.8	2.3	0.0	0.0	100
意見や要望への対応については	43.2	44.3	5.7	2.3	4.5	0.0	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

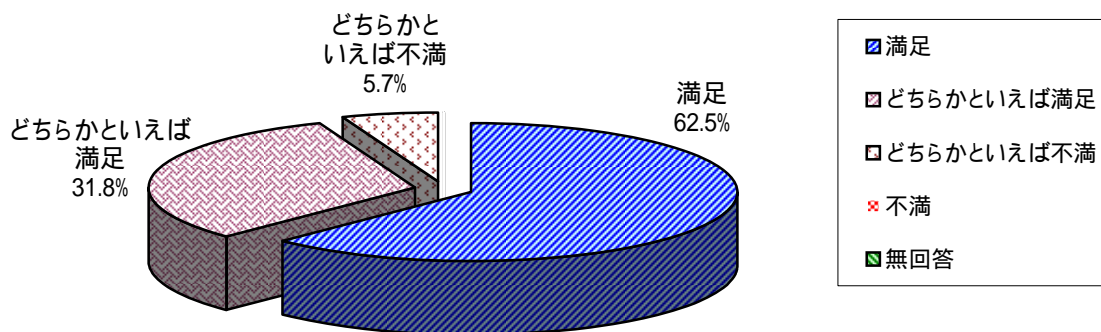


問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	62.5	31.8	5.7	0.0	0.0	100

総合満足度



利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 10月20日（月）9：00～18：00 10月28日（火）9：00～18：00

午前中の時間帯を中心に、断続的に実施しました。

観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

0歳児クラス

担任の「始まるよ、始まるよ」の声で、畳のまん中に敷いた布団の上に子どもたちが寄ってきて、朝の集まりが始まります。手遊び2曲をした後、絵本を読んでもらいました。絵本の中で、あいさつする場面になると、みんな一緒に「こんにちは」と声を出していました。その後、月齢の低い子ども8人は、おやつを食べ、月齢の高い子ども5人は、2人が歩き、3人はカートに乗って散歩に出かけました。公園に着いて、おやつのウエハースを食べ、お茶を飲んでから、ブランコとすべり台で遊びます。途中から1歳児クラスの子どもたちも来て合流し、両クラスの保育士全員で子どもたちを見守り、どの場面でも、保育士は一人ひとり声かけを絶やさず、優しく接していました。帰りは全員がカートに乗り、トンネルのところでは、やや暗い所を探検気分で降りて歩きました。

園に着いて、おむつを替えてもらって、園に残って遊んでいた月齢の低い子どもたちと合流しました。音楽に合わせて、「グーパッ、グーパッ」と身体を動かしたり、ダンスをしたりした後、絵本を読んでもらいました。

食事の前に、みんな名前を呼ばれ、「はい」と返事をして、エプロンをつけてもらいました。いすに座った子どもはスプーンを使って自分で食べ、ベビーチェアの子どもは保育士に援助してもらっていましたが、自分でスプーンを使いたい様子を見せる子どももいて、保育士がスプーンを渡すと、自分でご飯をすくおうと頑張っていました。

1歳児クラス

朝のおやつの前に、子どもたちは、濡れタオルで顔と手を自分でふきますが、うまくできない子どもは、保育士に手伝ってもらっていました。おやつは、ヨーグルトとお茶です。全員、スプーンを使って自分で食べ、うまく食べられない子どもは、保育士に「大きいお口をあけて食べてごらん」と声かけされ、その通りにやってうまく食べ終わりました。食べ終わると、着けていたエプロンはずして、自分のかごにきちんと入れました。

散歩の前に、「消防車を見に行きます」と保育士から説明を受けて、出かけました。消防車が準備をしている広場の前では、消防士さんから手を振ってもらいました。公園では、子どもたちは、「落ち葉のシャワー」と言いながら落ち葉を集めては空に向かって投げたり、保育士に葉っぱをかけたり、よく走りよく遊びました。傾斜のある場所で、登ったり降りたりし、保育士は、登りは「手をついて行くように」、下りは「おしりをつけて」と声をかけていました。帰りは、はしご車がはしごをしまうところに出会い、みんなで歩道に座って見学しました。

園に帰って、自分で着替えをしましたが、やってみて「できない」という子どもは、保育士に手助けしてもらいました。トイレは、みんな一人で座ってできていました。給食の準備の間に、絵本を4、5冊出して自分の周りにおいている子どもがいましたが、保育士から優しい言葉で「1冊だけにするように」声をかけられ、すぐに自分で本棚に戻しに行き、1冊の絵本を熱心に読み始めました。

2歳児クラス

2つの保育室を使い、子どもたちは約10人ずつの組に分かれています。朝、登園後の自由時間は一つ

の部屋で一緒に遊んでいます。紙を丸めて、おにぎり・卵焼き・おかずなどに見立ててプラスチックの容器に入れた「お弁当箱」を、新聞紙に包んで持ち歩いたり、絵本を読んだり、ウルトラマンなどのおもちゃで遊んだりしていました。「おかたづけ、おねがい」との保育士の声で、片付けをした後、2列に並んで、「ありがとうございました」「どういたしまして」と向かい合ってあいさつし、一方の組は隣の部屋へ移動しました。

朝の歌を歌った後、名前を呼ばれると、どの子どもも「はーい」と思いっきり大きな声で返事をしました。おやつの後、もう一つの組と一緒に公園に出かけました。今日は、保育参加のお母さんも一緒です。

公園では、王冠づくりをしました。鉢巻状の紙に、赤や黄色などの拾った葉を貼り付けて、頭にかぶり、噴水脇のステンレス製の柱に写る自分の姿を見て、王子様・王女様になった気分で大喜びしていました。かぶったまま園に帰るとき、通行中の人から「かわいいわね」と声をかけられていました。

給食の場面では、どの子どももフォークを使い、自分で食べていますが、最後の方のお皿に残ったものなどは、保育士が手助けしていました。

給食後、パジャマに着替えた後、全員が集まり、保育参加のお母さんから絵本を読んでもらいました。お母さんの読み方は堂々としていて、子どもたちは静かに聞き入り、終わると「もう一度」とせがんでいました。

3歳児クラス

朝の自由時間は、子どもたちは、ブロック・折り紙・紙の剣・ミニカーなどで遊んでいました。絵を描いたり、数人で押入れの下に潜って遊んでいたりする子どももいました。体調がすぐれない子どもや、一人で遊んでいる子どもは、保育士が抱っこをしたり、そばに付き添って見守ったりしていました。園の前の道路を、はしご車が走っているのに気づき、みんな一斉に窓側に向けより、珍しそうに見ていました。

担任の弾くオルガンの合図で、自分が使っていたおもちゃなどを片付け始めましたが、ブロックの箱は、子どもたち4人で「わっしょい、わっしょい」と運びました。

朝の集まりでは、当番グループの5人が前に出て、「今日は何月何日か？ 何曜日か？ 天気は？」などをみんなに問いかけ、他の子どもたちが、大きな声で答えました。（20日は、「はつか」と読むことを、担任から教えてもらいました）担任の「自治会と合同防災訓練があり、はしご車が来るので見に行くこと、それまでは部屋で製作をすること」などの話を、子どもたちは静かに、かつ興味深く聞いていました。

製作のテーマは、「トンボのめがね」。トンボの胴体のように切り抜いたダンボールに、毛糸をぐるぐると巻きつけました。はしご車の準備ができたとの連絡が入り、急いで見に行くことになりました。広場に到着し、はしご車のはしごを長く伸ばすのを見ると、子どもたちは自然に「パチパチ」と拍手しました。「大きくなったら、消防士になる」と言う子どももいました。終わって、訓練に参加している団地の人たちに「ありがとうございました」とあいさつし、団地の人たちからは、頭をなでてもらったり、手を振ってもらったりして、子どもたちはうれしそうでした。

園に帰り、製作の続きで、油性ペンで「眼」を描きました。その後担任から、トンボの羽はどうついているかを図鑑で見せてもらってから、「羽」をのりにつけ、終わると担任から色を塗ってもらいました。

給食は、配膳が終わって、ご飯の茶碗が左手前に置いてあるかどうかを担任が確認し、当番グループの「おへそとテーブル、ぴったんこ」「いただきます」のあいさつの後、食べ始めました。ほとんどの子どもがはしを使っていました。「ご飯のあと、歯ブラシを忘れないでくださいね」と担任が声をかけました。食べきった子どもには、褒めてあげ、食がなかなか進まない子どもには、保育士が声をかけ、援助をしていました。

4歳児クラス

自由時間には、粘土・ミニカー・ジグソーパズル・お人形さんごっこなど、思い思いに好きなことをして遊んでいました。保育士に絵本を読んでもらっているグループは、保育士の周りに座ったり、背中にくっついていたり、ひざに乗ったりして静かに聞いていました。何もしていない子どもには、時々保育士が声をかけ、

遊びに入るように誘っていました。子どもたちの間で言い争いも見られましたが、声が荒く大きくなってくると、保育士は、「大きな声、可愛いね」などとさりげなく声をかけ、さらにけんかになりそうなときは、間に入って双方の言い分を聞いて、それぞれの子どもの気持ちを話し聞かせ、納得させていました。

朝の歌を歌った後、散歩に出かけました。途中、くもの巣やどんぐりを見つけたり、葉っぱの色をみんなで言ったり、歌を歌ったりしながら歩き、「みんな足が強くなったね」と保育士に褒められてうれしそうです。公園に着いて、ブランコ・ロケットすべり台などで元気に遊びまわり、保育士のOKの合図で、崖登りにほとんどの子どもが挑戦しました。「木の根っこをしっかりとつかんで。立たないで」とコツを教わりながら、上までたどり着いて満足そうにしていました。

行きも帰りも、子どもたちは会う人ごとに元気にあいさつしました。行きに歩道の修理をしていた所が、帰りにはほぼ終わっていて、子どもたちの「きれいだね」の声に、工事をしていたお兄さんもうれしそうです。

給食では、当番2人がお皿を配り、保育士が盛り付けをしますが、当番も盛り付けを手伝いました。保育士が、ご飯茶碗・汁椀・おかず皿の正しい配置を示し、テーブルを見て回って、「きれいにならべてあるね」と、みんなを褒めました。

5 歳児クラス

朝の自由遊びの時間には、積み木をしたり、絵を描いたり、好きなことをしていました。「おかたづけの時間です」の担任の声で、おもちゃを片付けました。ゴミを拾う子どももいました。「今日は防災訓練の日です」と説明を受けた後、全員が黄色い防災頭巾をかぶって園庭へ出て、一緒に行く4歳児と2列に並んで園長の話聞いた後、出発しました。4歳児と5歳児は自然に手をつないで歩いていました。

団地内の広場では、すでに自治会の人々や消防関係者が集まっていて、子どもたちは元気にあいさつして最前列にしゃがんで、静かに説明を聞きました。消火器の取り扱いの説明を署員がし始め、「初めに」と言うと、子どもたちから「ピンを抜く」と声が上がりました。日頃、園でも訓練をやっているのだから覚えているようです。消火器からの放水訓練を団地の人々が終わると、子どもたちから「やりたい」と声があり、5歳児の5人が出て放水を行いました。うまくできて、団地の人たちや署員から拍手をうけ、うれしそうでした。

はしご車の実演が始まるまでには時間があるとのことで、4、5歳児それぞれに分かれて公園へ行きました。5歳児は、すべり台・ロープウェイなどの遊具で遊んだり、せみの抜け殻取りや鬼ごっこをしたりしていました。近隣の幼稚園の子どもたちも遊びに来ましたが、すべり台などではお互いに譲り合って仲良く遊び、鬼ごっこに幼稚園の子どもが混じってくる姿も見られました。

園に帰ってからの給食の時間では、一人ひとりトレイを持ってはしと皿をとり、当番2人が皿におかずを盛り付けしました。子どもたちの食欲は旺盛で、お代わりをする子どもが何人もいました。

午後の帰りの会では、明日の芋掘り遠足の持ち物などの説明を担当から受けました。疑問がある子どもは、「を持ってきて良いか」など、立ってはっきりと質問し、自分の意思を伝えていました。

まとめ

子どもたちは、のびのびと遊び、さまざまな経験をしながら園生活を楽しんでいます。保育士は、子どもたちの思いを受け止め、自主性を尊重し、穏やかな態度で子どもたちに接しています。

事業者コメント

当保育園は昭和 37 年に団地内保育園として開園して以来 46 年を地域の暖かい支援の中で過ごしてきました。

その間に改築があり、現在の園舎を建てるにあたり“子ども達の為にどうしたらよいか”を最大の課題として職員一同一丸となって取り組んで来ました。資金的に厳しい中で全部が全部思う様になった訳でもないのですが、全力をつくしたと自負しています。

幸い、よい職員に恵まれ、のびのび遊ぶ元気な子を目標に保育に励んで来たところです。しかし、いざ第三者評価を受けるとなると、勤務時間の違う大勢の職員を一つの場所に集めて自己評価について共通の認識を持ちたいと思いましたが、中々時間が取れないのが実情でした。又、書類の整理も容易ではありませんでした。

しかし、受審してみて多くのことに気付かされました。普段何気なくやっていた日々の保育について、全職員が自己評価をすることにより、改めて考えさせられる事があり、一つ一つのことに丁寧に関われるようになりました。又、テーマごとにもう少し深く勉強していきたいと思うようにもなりました。

保護者アンケートについては、80%超の回収率であったことを嬉しく思います。その中でも特に嬉しく思ったのは、家族アンケート分析のまとめの項に、「保育士への賛辞、感謝のコメントが数多くあり」という一行でした。これからも、相互信頼を重ね、よりよい保育を目指したいと思います。

又、保護者からの要望や意見につきましては、改善できるところは改善し、お互いに話し合いの中で解決していきたいと思っています。

評価の中で指摘のありましたマニュアルの見直し、苦情解決窓口の広報等は、早速に取り組みます。人材育成計画の作成につきましては、いろいろなものを参考にしながら、個人の特性も考慮に入れて、画一的でないものが出来ればと思っています。

第三者評価を実際に受けて感じたことは、思っていたよりずっと「温かい眼差し」で見えていただけたことです。ありがとうございました。

2008.12.18
明神台保育園

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.rakuraku.or.jp/hyouka/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
